

---

# 真っ白な世界の中で

雨宮柳

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

真つ白な世界の中で

### 【Nコード】

N0169B

### 【作者名】

雨宮柳

### 【あらすじ】

少年が目覚めたのは、カプセルの中だった。新生歴560年。突如降り注いだ隕石により、大半の陸地が海底へと沈んだ。たった一つ残された巨大施設、外に広がる白銀の世界と、暗雲に閉じた空。16人の少年と少女は、この絶望的な世界を生きていく――

## 序章：白の世界（前書き）

かなり勝手な解釈をしています。そうじゃないだろ、みたいな言葉はごもつともですが、許してやってください…。

## 序章：白の世界

静かに、温かい空気が身体を包む。

徐々に意識がはつきりとしてくる。

ゆっくりと目を開けると、灰色の天井が見えた。染み一つない、きれいな天井。

指先に感覚が戻ってきたのを感じて、靄のかかったような頭で上半身を起こす。そこで初めて、彼は自分が裸であるのに気が付いた。しかし、まだはつきりしない頭では羞恥心もいまひとつで、気にせず周りを見回す。中央に円柱型の機械があり、そこを中心に自分が入っているものと同じカプセルが放射状に並ぶ。

いくつかのカプセルが同じく蓋を開けて冷たい空気を外へ追い出している。

完全に冷気が排出され、同時に身体と頭にはつきりと意識が戻る。

——ようやく思い出した——

カプセルから身を乗り出して側面のスイッチを押した。スイッチのすぐ下から引き出しが飛び出し、中から黒いウェットスーツに似た、肩や腰周りに赤い線が数本入っている服が現れた。

着ると見た目の割に微妙な体温調整をできるようで、熱くも寒くもない。

カプセルの置かれた部屋を後にする。簡素な廊下に出ると目の前にガラス張りが現われ、自分の姿を映した。その20歳にしては幼さの残る顔へ触れるかのように、鏡を指先でなでる。

「僕は、コールドスリープをしたんだっけ」

一言ずつ確認するように、口にする。ガラスに映る自分から……降り積もる灰色の雪と、眼下に広がる氷原へと焦点をずらす。

「崩壊した世界……か」

世界は3度の戦争を乗り越え、宇宙への進出を続けていた。宇宙開発は着実に進み、人々の見続けていた夢は現実化すると思われていた。しかし、地球環境を疎かにし続けたことが神の怒りに触れたのだろうか。

巨大隕石の接近が確認された。もし直撃すれば地球の消滅は免れない質量である。

人々は必死の抵抗を続けたが、質量を減らすことができず、結局衝突する。質量が小さくなっていったため地球の消滅は免れた。しかし、ユーラシア大陸の中心部を残してすべて海となってしまった。やがて過去を辿るように氷河期が訪れ、地表は生物の住めない環境と化した。

生き残った者達は、ロシアに建設されていた技術センターへと、一様に詰め掛けた。しかし当然ながら大人数を養うほど食物を用意することはできず、餓死者は続出した。

わずか5年で10万を超える人口は100分の1以下になっていた。このままでは人類が死滅してしまう。そう思われていた矢先、ある提案が出た。

『氷河期もいずれば過ぎ去るだろう。ならばその間、子供たちをワールドスリープにかけてはどうだろうか？』

その提案は、様々な議論を経て承認される。幼い子を手放す親の気持ちで最後まで引きずられたが、人類存続をかければ仕方なかった。

選ばれたのは16人の少年少女だった。カプセルの都合上、これが限界だ。

平均年令12、親に先立たれた子供が中心の構成となった。次に目覚めるときは、よほど運がよくなければ大人と呼ばれる者はおるか、16人の選ばれた子供以外は生き残っていない。悲しみを少しでも感じさせないための配慮、と建て前は述べられているが、実は単に

子供を手放したくないだけであつた。

とにかく手筈は整い、皆に見守られて少年少女は眠りにつく。

また、暖かい世界の待つ世界へ。

かつてのノアになるべく。

「……そう、この氷期はそこまで長いものではないと考えられたんだ」

彼らには、なぜこのような世界になっているのか、なぜコールドスリープにかけられたのかなど、その他様々な生き抜くための知識を、眠りにについている間に備えられていた。

だから、当然目覚める時期も把握していた。

だが——今日の前に広がるのは、あまりにも想像とかけ離れているのだつた。

「氷期は……まだ終わっていない。……早すぎる……」

## 序章：白の世界（後書き）

ゆったりとしたペースで書いていきます。拙いですが、どうか最後まで読んでください。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0169b/>

---

真っ白な世界の中で

2010年11月2日19時42分発行